

情報工学科

産業や社会のさまざまな分野で情報技術者として活躍できるように、
めざす進路に応じて学べる4分野の「プログラム制」を導入。
次世代産業やユビキタス社会を視野にいれた「ものづくり」を支える情報工学の教育・研究を推進し
さまざまな情報処理手法に精通する有能な人材を育成する。

- 「情報通信」「情報デバイス」「情報処理」「情報メディア」の4分野における専門知識を修得。
- コンピュータやプログラミングの基礎知識からITS、バーチャルリアリティ、移動通信技術などの最先端分野にいたるまで幅広く学習。
- 実社会に照らし合わせた卒業研究や学会発表、資格の取得を奨励。理論構築だけでなく実践的なプレゼンテーション技術も養う。



「売れる理由」を感性科学的に分析し、 ヒト・モノ・情報の高感度なつながりを創成。

使う人の感性や心理を解析し“人と物の円滑な情報コミュニケーション”の企画や、ユーザビリティの評価を行っています。例えば、カーナビ開発の場合、機能性やモニターデザイン、マップ画像、音声といった、人間の五感に訴えるインタフェースを重視することで、情報の伝達性はもちろん、商品の売れ行きにも好影響を及ぼすことがわかっています。現在、私の研究室では実際にいくつかの企業と契約し、例えば新しいインターホンシステムの研究・開発に取り組んでいます。机上の理論だけではなく実践的な研究開発に学生も参加することで、技術面やスケジュール、コスト意識、コミュニケーション能力といった実社会で必要とされるスキルを磨くことができます。この貴重な経験を通して「社会にモテる」人材を育てたいと考えています。

川澄 未来子 先生
専門分野：感性工学、色彩工学、情報デザイン、心理物理学

講義、資格、研究…体系的な学びから システムエンジニアに必要なスキルを鍛える

システムエンジニアをめざして情報工学科に進学。『ソフトウェア工学』や『プログラミング演習』などの講義で情報とシステムを体系的に学び、3年次には基本情報技術者の資格を取得しました。卒業研究では人間の自動車運転行動の新しい解析方法を研究。加速や車体角度の加減といった運転行動を、実車データとともに危険回避システムなど自動車の知能化に高精度で反映させるのが目的です。また、研究では「MATLAB」というそれまで使ったことのない高度な数値解析ソフトにも挑戦。システムエンジニアとして活躍するためのスキルを鍛えられたと思います。

竹内 万祐子 さん
2012年3月卒業
(愛知県立 知多翔洋高校出身)